

8月企業物価9%上昇

口侵攻、円安影響

指数過去最高

日銀が13日発表した8月の国内企業物価指数(2020年平均=100、速報)は、☆NEWSの言葉は、前年同月比9.0%上昇の115.1だった。前年を上回る

のは18カ月連続。指数の水準は1980年に大幅な基準改定が行われているが、単純比較では60年の統計開始以降の過去最高を更新。

ロシアのウクライナ侵攻を受けた資源や原材料の価格高騰に加え、円安進行が輸入品の価格を押し上げた。

【4面に表層深層】

9月は日銀の超低金利政策を背景に急速に円安が進み、約24年ぶりの円安ドル高水準となった。今後は仕入れ費の高止まりで商品の値上げが加速する可能性が

ある。ただ、十分に価格に転嫁しきれない企業は収益を圧迫され、雇用維持や賃上げの余力がなくなる懸念もある。家計にとっては物価上昇

に賃上げのペースが追いつかず、打撃となりそうだ。企業物価指数は、企業間で取引される商品の価格水準を示す。品目別の上昇率では、エネルギー価格に左右さ

れる電力・都市ガス・水増が33.4%、石油・石炭製品が15.6%、鉄鋼は26.1%、木材・木製品は20.2%、金属製品は12.3%、飲料品は5.6%、情報通信機器は4.1%だった。

全515品目のうち、上昇したのは431品目で、下落の68品目を上回った。米国などで新型コロナウイルス禍からの経済再生が進み、資源や原材料の需要が高まったことも背景にある。

企業が海外から輸入する物品の値動きを示す輸入物価指数は、ドルやユーロなどの契約通貨ベースでは21.7%上昇だったが、円ベースでは42.5%上昇となり、円安の影響が大きく出た。